

政策移動に関する村落の風水伝説と実践

—近現代中国におけるトン族の事例から—

黄 潔

現代中国では特に1950年代から現在にかけて、中国共産党主導の農村における経済政策および文化政策などによって、集落の移転と住民の移住ならびに、集落内部の自然や施設などの強制的な移動が頻繁に発生してきた（「政策移動」と呼ばれる）。こうした政策移動に関する人類学的研究は、人（住民）の移動に着目し、移民の処遇・適応及び文化遺産の保護などについて論じてきた。

本稿では従来の研究でほとんど論じられてこなかった、人以外のもの（自然や施設など）を対象とする政策移動について考察する。具体的には、政策移動が現住民の日常生活にどのような影響を与えるか、彼らはそれぞれ具体的な事件にどう対応するかについて明らかにする。とりあげる事例は、中国西南部に居住するトン族の集落における現地調査に基づいている。特に、政策移動にまつわるトン族の社会変容と風水知識の変化のなかに現れた住民の意識と主張について論じる。

政策移動を風水という切り口から捉えることで、以下のことが明らかになった。この60年来、自然や施設などの政策移動が原因で、トン族の集落空間にはたびたび変動が起こった。それぞれの出来事に対して、村人はローカルな風水知識によって、新しい風水伝説を創造したり、風水に基づいて対処したりしてきた。ところで、近年、村民は観光客と接触し始めてから、観光による経済的な収入を求めるようになってきている。また集落に対する景観整備には地方政府からの経済的な支援をもらえることとなった。それらの社会動態によって、集落風水に対する村人の考えや、風水師と村幹部の関係は変化しつつある。

そのために、創出された風水に関する言説は、現代中国における政策移動に伴うトン族の社会変容を理解する鍵として重要である。また、観光開発から集落風水を守るために、村人と風水師や村幹部との関係や、集落と観光客との関係が反映されている。今後は住民を対象とする政策移動と風水の関係についても考察したい。